

清末内モンゴル西二盟の官辦開墾に於ける墾務局の構成と役割について

学籍番号：A6GD5102 ゲレルト 2008年10月8日

Structure and role of the bureau of land commission established in the Inner Mongolian western two leagues under the land reclamation policy of Qing in the first decade of the 20th century

Borjigin GERELT (D3) (Oka Lab.)

1、発表要旨

今回の発表では、清末新政策の一環として内モンゴル西部地域に於ける官辦開墾、その政策を実施する行政機関である墾務局の構成と役割を明らかにする目的で、墾務大臣貽穀が光緒 28 (1902) 年に、西二盟の内モンゴルの土地を開墾する為に設置した墾務局の設置経緯、資金の出所、職員の出身、組織構成、職員の給料、職務手当などの面から、墾務局の組織と動きを分析し、西部内モンゴルに行われた官辦開墾に、どのような役割を果たしたのかを明らかにしたい。

これまで清末の官辦開墾については、中国のソドビリグ、ハスバガナ、劉毅政氏、肖瑞玲、閻天靈梁氷、日本の安齋庫治、鉄山博、山下裕作等多数の研究論文が出されているが、ほとんどの研究者は官辦開墾の一環として墾務局設置の事実を述べるだけで、墾務局の構成を詳しく分析し、実際の開墾における職員の行動や、墾務局の役割を詳細に論述した研究はまたいないので、この分野の研究を課題として理解を深めて行く。

2、史料について

今回の発表で引用した史料は、主に内モンゴル自治区档案馆が編集刊行した『清末内蒙古墾務档案史料彙編』¹、貽穀の編集した『墾務奏議』²と『綏遠奏議』³等である。

¹ 内モンゴル人民出版社、1999年、呼和浩特。

² 清末京華印書局排印本、近代中国史料叢刊続編第十一輯、文海出版社1974年、台北。

³ 清末京華印書局排印本、近代中国史料叢刊続編第十一輯、文海出版社、1974年、台北。